自慢のワインを手に、作品展示をしているギャラリーの前で。

イケてるPEOPLE

夫婦で合格
日本ソムリエ協会認定
ワインアドバイザー

藤本邦彦さん・和代さん
(山東町)

日本中を巻き込んだワインブームが落ち着いてきた今日この頃。平成10年夏、ワインアドバイザー試験に挑戦した藤本邦彦さんと和代さんご夫婦は、みごとに資格を取得。平成11年7月にオープンした自分たちのお店「ケイズセラー」を切り盛りしながら、地元の気軽なワイン屋さんとして頑張っている。

ソムリエはよく聞くけど、ワインアドバイザーって何?ワインアドバイザーとは、レストランでサービスするソムリエに対し、ワイン販売の専門家のこと。ソムリエと同等の知識とテイスティング能力が要求される、非常にレベルの高い認定試験にパスした酒類取扱い業者にのみ認められる資格のこと。1次試験を合格し、2次試験に進めるのは、たった3割という難関。

「二人だったからこそ、助け合ったり励まし合ったりして合格できたんですよ。一人じゃ、あきらめていたと思います」と邦彦さん。

最初はそんなにワインが好きだったわけではないと苦笑するお二人。酒店で働いている間、お客さんにすすめるには自分で飲んで味を確かめてからと思って、いろいろ試していたら、ワインにハマってしまったとか。ワインには育ってきた背景や物語があるという。お客さんにはそれを知って味わってほしいと願っている。

店には念願のワインセラーをつくり、常時約500アイテム、数千本のワインを用意している。

「最初の頃は、ソムリエ田崎真也の本やワインの専門雑誌などを読みあさって、掲載されているワインを片っ端から注文したこともあったんですが、今は自分たちで試飲し、納得したものでないと仕入れません。自分たちの舌を信じています」さすがワインアドバイザー、プロの言葉。

「おすすめのワインを教えてくださいと、よく聞かれるんですが、その人自身を知らないと答えられないんです。ですから、根ほり葉ほりいろいろなことを聞いてしまいます。そこから、つながりができるのが、またうれしいんです。新しいワインを入れると、このワインならあのお客さんに合うなとすぐに顔が浮かびます」実にワインは奥が深い。

お二人の夢は、お店を地域に密着したコミュニケーションの場にすること。ワインを飲みながらワイワイおしゃべりを楽しむ試飲会をやったり、店内ギャラリーを開設したりと、若い人たちを応援し地域活性化に貢献中。

「人との出逢いやつながりが1番大切で、1番おもしろい。ワインは手段にすぎません」と肩に力を入れず、あくまでも自然体のお二人でした。

天然記念物 こうのとり

自然を大切に
たんしんで年金をお受取りの方へ
年金優遇パワーアップ
300万円 + 350万円 + 350万円 = 1,000万円まで 金利優遇
あなたの街の親近バンク
但馬信用金庫
本店/豊岡市中央町17-8 TEL0796(23)1200

まつり伝説

色鮮やかな幟が五月晴れの空にはためき、初節句を祝う。すくすく育てと願う親の思いが、にぎやかな餅まきで締めくくられる「**幟まわし**」。但馬の祖・天日槍命にまつわる出石神社に古くから伝えられる行事である。

幟まわし
5月5日 出石神社（出石町宮内）

青い空に鮮やかな幟が映える。初節句の家では外に出て幟を迎える。

但馬一の宮として有名な出石神社は、但馬開発の祖として天日槍命が祀られている。天日槍命は新羅国（韓国）の王子で但馬国へ移り住んだと伝えられている。製鉄技術などの鉄文化を伝え、瀬戸の切り戸を切り開き、豊岡盆地周辺の湖沼を豊かな土地へ開発したとも言われている人物だ。天日槍命を祀る出石神社は、現在も氏子の皆さんによって、いろいろな儀式や行事が守られているが、その中のひとつに初節句を祝う「幟まわし」がある。

いつの頃から始まったのか定かではないくらいに、ずっと昔から受け継がれている。5月5日節句の日、出石町宮内地区の中学生（なぜか男の子だけ）たちで行われる行事。初節句を迎える男の子がいる家々をまわり、家の前で丸い輪を描きながら、5本の幟を持ち、歌を歌い、法螺貝を吹きながらお祝いをする。出石神社前や3カ所の辻でも舞われる。

初節句を祝ってもらうお家では、親戚や近所の人々を招待しお祝いの宴を催すとか。子供がすくすく育つようにと願い、みんなでお祝いするのだ。また、赤・青・白の3色の菱形をした餅をつくり、出石神社へ奉納される。あとは境内に集まったたくさんの人々に餅まきが行われ、振る舞われる。

色鮮やかな幟には、豊臣秀吉、静御前などの雄々しい姿が描かれている。この幟は宮内地区の氏子たちが代々受け継ぎ、古くなれば新しくし守られている。

「ヨイヨイバイヤナ、いけのはたのくいちらうが、すたきってはなあて、はだかでどうちらうがなるものか、なりやこそここまでしてきたぞも一ツまはつたらしょうぶしよう」と歌う声が響く。意味はよくわかっていない。「すたきってはなあて」は「瀬戸を切ってはなして」の意味ではないかと言われている。これは天日槍命のことだろうか？

菱形のめでたいお餅をもらうために、出石神社の境内にはたくさんの人で埋め尽くされる。初節句のお家の人たちが盛大に餅をまく。

戦時中の1年間だけ食料難のため「幟まわし」が中止されたことがあった。その年、火事が起こり民家が焼けてしまった。氏子の皆さんはこれは「幟まわし」をやらなかったせいだと恐れ、翌年から欠かさず行うようになったという。

不思議がいっぱいの出石神社の行事。きっと深い意味があったに違いないが、我々が忘れてしまったのだ。だからこそ、出石神社の氏子の皆さんは、神聖な気持ちで伝統を大切にしている。

協力：出石神社

より自然に、より伝統的に

天然乳酸菌発酵酛（もと）の技と味

但馬の自然は豊かで厳しい。
だから水が美味しい。
米も旨い。
酒造りもできるだけ
自然に近い方がいい。
天然の乳酸菌や
酵母達に思う存分、
力を出してもらえばいい。
人間は彼達の気持ちを知り、
ほんの少しだけ
助けてやることだ。
そうすれば、旨い酒になる。

香住酒造有限会社
〒669-6545 兵庫県城崎郡香住町森646-1
http://www.fukuchiya.co.jp/